

## 第1回福井城史料調査委員会 主な意見

### 【史料調査について】

- ・国史跡の指定は基準が厳しい。平面位置と立面構造の確定が必要になる。立面構造の確認資料としては、写真や立面絵図、建築資材や組立てに関する文献記録など。
- ・熊本城や、国指定史跡ではないが甲府城や岡山津山城などは、入念な史料収集を行っていて、参考になる。
- ・県内からは新たな史料はもう出てこないだろう。国文学研究資料館に越前史料というものがある。

※越前史料は、春嶽公記念文庫に含まれていた複製本類の通称

- ・佐佳枝廻社に御座所の写真、福井工大とあわら市の浄光寺に天守の立面図があるので、確認する必要がある。
- ・市郷土歴史博物館では、個人寄贈の写真帳等も所蔵しており、これらの史料も調査する余地がある。
- ・アオッサの建設時の調査では、桜木門の位置が確認されている。発掘調査でしか正確な位置は分からないため、過去の発掘調査等の成果をまとめ、現在の図面に位置を示す必要がある。

### 【復元整備の検討について】

- ・写真を集めただけでは復元は困難。忠実な復元には、立面・断面を表した史料が必要だが、ほとんど出てこない。外観を描いた史料も色々あり、どれを採用するか判断も必要になる。内部意匠を含め、他の事例を参考に復元するしかないだろう。
- ・建物は時代ごとに変わる部分も多いので、どの時期で復元するか検討が必要。
- ・天守は大火まで、それ以降は本丸御殿がメインになるため、両方を復元すると時期にずれが出てくる。
- ・時代が異なるものが復元されても問題ないのではないか。
- ・復元の厳密性を考えると、写真等の史料が一番多く残っている幕末に時代を設定し、復元するのが一般的だろう。

- ・現在の地盤面は当時よりも高く、御廊下橋は現状の高さにあわせて復元している。復元していくなかで解決しなければならない課題は出てくる。
- ・南側と北側の柵形の石垣は撤去されてしまったが、城郭の構造上とても重要。柵形の石垣があった場所の地下には石が残っている可能性もある。

### 【その他】

- ・（現在のお堀の外側に多くあった）門は復元できなくてもサインなどを設置していくことで、城郭を感じるまちづくりができるだろう。
- ・御廊下橋はきれいだが、孤立しており、周辺もバランスがとれた整備が必要である。
- ・御廊下橋が復元され、観光ルートのメインゲートは西側になると思う。山里口御門と石垣上の土塀があれば正面性も出てくる。それに中央公園側で、お堀や御座所の遺構を表示していくと、最低限、城址公園として成り立つだろう。
- ・控え天守の石垣を修復しないといけない。修復に向けた調査も必要。
- ・控え天守の石垣はあのまま残していくのも良いのではないか。
- ・2050年のビジョンがあり、それに基づいた整備をしていかないといけない。その方向性を決めることが重要。
- ・城址も広いので、復元はある程度の範囲を絞って検討する必要があるだろう。残っている度合いも違うし、県庁などもあるので、短期、中期、長期に分けて、2050年に向けて何ができるかを考える必要があるだろう。